Joy風
Faculty of Informatics
Shizuoka University Newsletter
Vol.37, October 2026
https://www.inf.shizuoka.ac.jp
October2026
vol.37
静岡大学情報学部

情報学部創立30周年

30th Anniversary

情報学部 30 周年記念式典・祝賀会報告

情報学部 30 周年記念事業委員会　笹原 恵

2026年7月18日17時から、ANAクラウンプラザホテル浜松(旧クラウンパレス浜松)において、情報学部30周年記念式典と祝賀会が開催され、御来賓、卒業生、現役教職員を含め、150 名が出席しました。

記念式典は、小西達裕情報学部長が開会の辞を述べたあと、御来賓として、鈴木康友静岡県知事、中野祐介浜松市長、難波喬司静岡市長(いずれも情報学部客員教授)、そして渡邉裕司浜松医科大学長からご祝辞をいただきました。また情報社会学科2004年卒業の麻里久さん(福井工業大学経営情報学部准教授)を代表とする有志の皆さんから届いた祝電が披露されました。

次に近藤真元情報学部長(情報学部30周年記念事業委員会委員長)から、「情報学部30年のあゆみ」と題して、1995年の情報学部創設以降の歴史が紹介されました。また日詰一幸静岡大学長からは祝辞とともに御礼のご挨拶があり、最後に、30周年を記念して募集した、情報学部のキャラクターの最優秀賞の発表がありました。学内外からの35点の候補作の中で、最優秀賞として、情報学部情報社会学科３年生高橋彩華さんの発案した「じじじ」が選出され、小西学部長による表彰がありました。

祝賀会は、情報学部の遊橋裕泰副学部長の開会の辞に始まり、御来賓である、河合利夫浜松工業会会長の乾杯の音頭で祝杯を行った後、卒業生、教職員OBOG、現役教職員などの交流が繰り広げられました。続いて、御来賓の福田充宏工学部長からご祝辞をいただくとともに、静岡大学ネーミングライツパートナーである、ローランド ディー. ジー. 株式会社様とハギワラソリューションズ株式会社様からもお祝いの言葉をいただきました。

最後に、伊東幸宏元学長、西原純元情報学部長、酒井三四郎元情報学部長から、学部創設当時のことや学部長としての思い出などについてのスピーチがあり、それぞれの思いのこもったユーモアあふれるお話に情報学部の辿ってきた歴史を感じることができました。閉会の辞を杉山岳弘副学部長が述べ、出席者全員で記念に集合写真を撮影しました。


情報学部30年のあゆみ(近藤真元情報学部長)



参加者集合写真

情報学部キャラクター「じじじ」を紹介します！



学部を構成する3つの学科を表すため、「情報」の最初の音である「じ」を3つ組み合わせて、「じじじ」と名付けられました。AIや情報技術をモチーフにした、子犬型とヒト型の二つの姿を持つ計算機型のキャラクターです。ヒト型の顔を被り物として描くことで、情報は媒体を介して伝わり、その見え方や受け取られ方が変わることを表しています。また、浜松キャンパスの形、パソコンのカーソル、生成AIと人との関わりも、デザインのモチーフとなっています。

「じじじ」の生みの親、高橋彩華さん(情報社会学科3年)に聞きました

Q 受賞のご感想は？

A 今回の受賞は、多くの学生さんや教員の方が「じじじ」をいいなと思って選んでくださった結果であり、心から嬉しく思います。一方で、大学の学部のキャラクターとしては若干デザインを攻めすぎたかなと思う部分もあり、本当にこれでいいの！？という驚きというか戸惑いもちょっとあります。

Q 「じじじ」制作のきっかけは？ 重視した点は？

A もともとデザインを考えることが得意だったことや、３万円の賞金が魅力的だったことから、滅多にないこの機会にぜひ挑戦してみようと思い、制作を始めました。

制作にあたって最も重視したことは、「静岡大学の情報学部のキャラクターだと一目見て分かること」です。かなり悩んだ結果、静岡のモチーフとして富士山を、浜キャンのモチーフとして真四角さを、情報学部のモチーフとして情報学部の全学科が共通して使用しているパソコンのカーソルを取り入れました。

Q 「Joy風」を読む皆様に一言お願いします。

A 「じじじ」は、これでもかというほどこだわりを詰め込んだキャラクターです。情報学部として、ぜひ「じじじ」を魅力的なキャラクターに仕上げていただき、学生さんや一般の方々に、末永く「じじじ」を愛していただければ嬉しい限りです。

＊記念式典・祝賀会の様子と「じじじ」について詳しくは情報学部創立30周年特設サイト(https://www.inf.shizuoka.ac.jp/30th-anniversary/)をご覧ください。


高橋彩華さん(左)と小西達裕情報学部長

令和８年度静岡大学入学式･情報学部春季保護者会

情報学部学生委員会　狩野 芳伸

４月４日（土）に、静岡市のグランシップにて入学式・春季保護者会が実施されました。
入学式は昨年に続いて全学部統一での式典となりました。保護者も見守るなか、情報学部生は 242 名、大学院修士課程の情報学専攻は基盤情報学コース 52 名、領域情報学コース 36 名の計 88 名の新入生たちが、期待を胸に新たな一歩を踏み出しました。保護者会は、12 時５分から会議ホール風にて１時間ほど開催され、200 名以上の保護者の方がご参加されました。小西学部長による挨拶と学部の紹介にはじまり、浜松工業会会長による挨拶と会の紹介が行われました。続いて、学部主要委員会の長が、学業（教務委員会）、学生生活 (学生委員会)、卒業後の進路選択・就職（キャリア支援室）について説明しました。終了後には各担当から個別の質問への回答をさせていただきました。
また145名の保護者の方がアンケートにご回答くださいました。
居住地の分布は、静岡県内が 30.3%、その他東海が 40.0% で、その他全国各地からのご参加をいただきました。ご来場誠にありがとうございました。
保護者会への評価では、73.8%の保護者の方から「有意義である」とのご回答を得ました。アンケートの自由記述欄におきましても、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後の情報学部の運営の参考にさせていただきます。



春季保護者会の様子

令和8年度新入生歓迎合宿

情報学部学生委員会　狩野 芳伸

2026 年 4 月 18 日（土）から 19 日（日）の午前にかけて、愛知県田原市の休暇村伊良湖にて情報学部の新入生歓迎合宿が行われました。合宿形式での実施は昨年度より継続され、今年は情報科学科、行動情報学科、情報社会学科から合計 239 名の新入生が参加しました。
往路のバス内のイントロクイズから始まり、バーベキュー、レクリエーションなどの企画が行われました。イベントが進むにつれ新入生たちも緊張がほぐれていく様子が見受けられ、これから大学生活を共にする仲間との繋がりを作ることができたかと思います。総数 50 名の上級生スタッフにおいても、大きなイベントを企画・運営をする大変さや達成感を味わういい機会になり、参加者全員にとって有意義な合宿になったかと思います。
合宿後のアンケートには新入生 133 名が回答し、合宿が自分のためになったかという質問には 126 名がやや思う・そう思うと回答していました。また、「学科を超えた友人を作ることができた」、「仲が深まった」、「とてもいい思い出ができた」といった感想が寄せられ、合宿の施設・環境・料理に関しても満足・やや満足という回答が 約９割を占めました。教員も含めた参加者の評価も高く、大変好評を博しました。



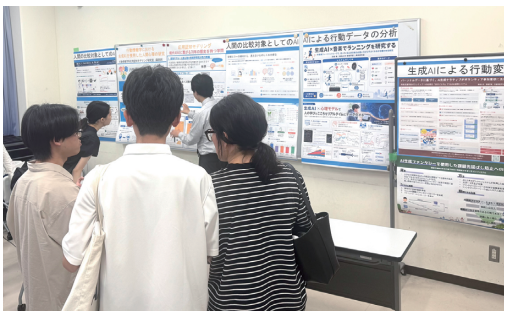


2026年度夏季オープンキャンパス

情報学部広報委員会　中川 恵理

令和８年８月５日（水）、夏季オープンキャンパスが開催されました。当日は 927 名（受付記録より）もの方にご来場いただき、会場は大いに賑わいました。午前の部では、小西達裕学部長の挨拶に始まり、各学科ミニ講義・入試講演、研究室・授業展示が行われました。ミニ講義では、新村文郷先生（情報科学科）による「コンピュータはどうやって画像を理解するのか？～画像認識の仕組み～」、金鎭赫先生（行動情報学科）による「AI とウェアラブルデバイスが創る『あなただけ』の健康づくり」、岡久太郎先生（情報社会学科）による「AI のことばと人間のことば」の３講義を実施しました。各学科での学びや、情報学の幅広さに触れていただく機会となりました。入試講演では、各学科の教員が過去の入試問題をもとに解答のポイントを解説しました。研究室・授業展示では、情報学部で行われている多彩な研究や授業、学生生活について、実際に見て、聞いて、体験しながら知っていただきました。また、今年度初めて設置した「学科紹介ブース」では、各学科の教員や学生が来場者の皆さんと直接言葉を交わしました。普段なかなか聞くことのできない生の声に触れられる機会とあって、各ブースは大変な盛況となりました。
オンラインの特設サイト（https://www.inf.shizuoka.ac.jp/opencampus2026/）では、オープンキャンパス当日の様子について動画を公開しておりますので、是非ご覧ください。







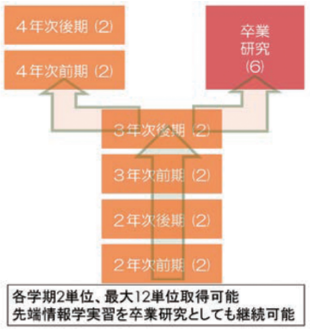
先端情報学実習

先端情報学実習世話人会 情報社会学科・教授　高口 鉄平

先端情報学実習は学生の主体性に基づいて実施される研究プロジェクトであり、２年次から卒業までの３年間、一貫して本格的な研究活動を行えます。本実習では「〇〇を成し遂げたい」という意欲の高い学生と教員が一体となって学術研究に取り組みます。また、それぞれの研究プロジェクトには、所属学科が異なる教員が複数名参画し、本学部が掲げる文工融合の理念に基づく情報学の研究・指導が実践的に行われています。

先端情報学実習では、現在 14 の研究プロジェクトが実施されており、２年生から４年生まで合わせて 100 名以上の意欲的な学生が各プロジェクトを主導的に進めています。本実習で取り組む研究テーマは、継続して卒業研究とすることや、大学院に進学する場合はその後の修士論文や博士論文に繋がるきわめて長期的な研究として深めることができます。

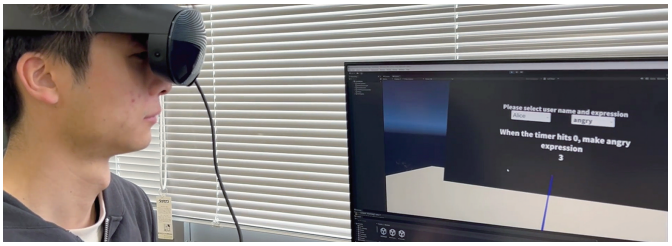
また、先端情報学実習では「優先配属制度」が運用されています。この制度は、先端情報学実習に携わっている学生が一定の条件を満たした場合、通常の研究室配属とは異なるプロセスで、希望する研究室に優先的に配属されるものです。この制度を活用することで、学生の所属学科とは異なる、情報学部内の他学科の研究室で研究を行うことができます。



実世界と数理世界を結ぶモデリングとシミュレーション

情報社会学科４年　片岩 拓也、行動情報学科４年　齊藤 遼太、情報科学科４年　永井 和月

私たちが取り組んだ「実世界と数理世界を結ぶモデリングとシミュレーション」では、現実社会で起こる多様な現象を数理モデルや計算機上のシステムとして表現し、シミュレーションや実験を通じてその仕組みの理解や課題の解決を目指しています。対象とする現象は、言語、量子、認知、人間とコンピュータの相互作用など多岐にわたります。例えば、VR を用いた認証システムに関するプロジェクトでは、認証時に提示される表情が利用者の認証行動やシステムへの印象にどのような影響を与えるかを分析しました。この研究は、実世界で利用される認証技術を実験環境上に再現し、人間の認知や行動との関係を定量的に明らかにしたものです。その成果は、HCI 分野の主要国際会議である CHI EA '26 に採択されました。



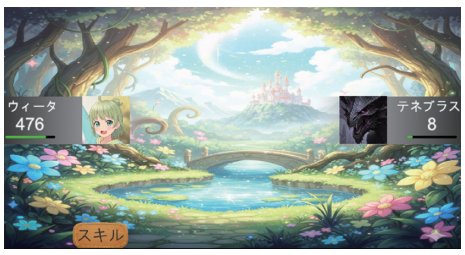
行動変容を促すデジタルヘルス介入システムの構築

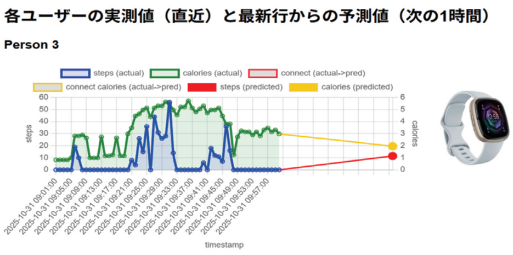
行動情報学科３年　進藤 隆裕、星野 瑞希

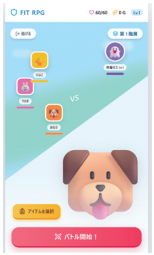
本プロジェクトでは、若年層の運動不足解消を目指し、運動とゲームを連動させたアプリを開発しています。昨年度は Fitbit で取得した歩数や運動強度をキャラクターのステータスに反映するゲームを制作し、静大祭「テクノフェスタ」で体験会を実施しました。

今年度は、昨年度の課題を改善すべく開発体制を拡大し、より多くの人が楽しく運動習慣を継続できる新アプリの完成に向けて、開発を進めています。

また、「ウェアラブルデバイスで得たデータから将来の消費カロリーと歩数を予測するシステム」を構築するプロジェクトも行いました。システム構築だけでなく、データ収集やデータクレンジングなど今後の研究基盤となる知識も実践的に学べる良い機会になりました。テクノフェスタで出展した際に、来場者を対象に体験を行ったことで、プロジェクトの将来的な実用性を体感することができました。







見えない価値を語る ～情報に縛られる私たちの選択～

情報社会学科４年　長内 周平

現在の私たちのインターネットにおける情報環境は、インフォデミックと呼ばれるような、真実／嘘を含め私たちが把握できない量の情報が氾濫している状況です。また、そのようななかでアテンションエコノミーという、商品そのものではなく、ページがクリックされること、閲覧されること自体が価値を持つ経済モデルが成立しています。

そこで、このプロジェクトでは、さまざまな情報、イメージなどが私たちに与える影響という「見えない価値」を、経済的なアプローチで「見える化」する手法を身につけ、私たちの選択がいかに縛られているかを分析しています。実習では、グループにわかれ、それぞれが関心あるテーマを設定し、分析を進めます。

分析例として、コンジョイント分析や CVM という手法によって、化粧品の商品そのものではない「ブランド」「イメージ」の価値がどのくらいかを測ったり、AHP という手法によって、インフルエンサーによる商品紹介が一般の個人による商品紹介の何倍の影響力があるかを測ったりすることなどが挙げられます。



※プロジェクトを表現する絵は生成 AI（ChatGPT）で作成しました。

キャリア支援室の取り組み

Career Support

令和8年度 キャリア支援室の取組み

情報学部キャリア支援室　佐治 斉

情報学部キャリア支援室は、情報学部と大学院情報学専攻の学生の就職と進学に関わる支援を行う組織です。現在、5名の教員とキャリア支援専門事務職員の計6名で構成されており、年2回の進路ガイダンス、企業や官公庁との情報交換、インターンシップや採用に関する情報収集と学生への情報配信、就職資料室を活用した企業情報提供、および学生個別の対応などを実施しております。このうち進路ガイダンスでは、就職情報サイトに関係する企業の力もお借りし、学生を集めて就職活動やインターンシップに関する説明を行い、各学生の進路選択への興味・関心を高めるよう努力しております。また進学に関しては、学部生の3割以上が大学院に進学しており、さらに進学率が上がる傾向にあるため、その状況に合わせた支援も行っております。

近年は、企業側の採用活動が早期になり、オンラインを含めて説明会や面接等が頻繁に行われるようになり、学生の積極性が求められるようになってきました。これを踏まえ、キャリア支援室でも、オンラインでの情報検索や企業との面接ができるよう、学部内のスペースに専用の個人ブースを設置し、就職活動に合わせた環境を提供しています。我々は、今後も時代の変化を見据えた学生支援を続けていく所存です。



就職資料室前掲示板



就職資料室内

学生生活

Campus Life

「ITソルーション室」の紹介

行動情報学科4年　齊藤 遼太

ITソルーション室（ITS）は、静岡大学情報学部公認の学生団体です。情報学部と工学部の学生によって構成され、浜松キャンパス内で発生するIT関連トラブルを解決することが主な目的です。学生や職員から寄せられる相談を年間100~200件ほど解決し、キャンパス内の駆け込み寺として機能しています。

ITSはトラブル解決の傍ら、勉強会の開催、コンペティションへの出場、独自システムの構築と運用などを通じた自己研鑽に励んでいます。昨年度は、内閣府による「行政改革ハッカソン」、情報セキュリティに関する対応力を競う「情報危機管理コンテスト」、公共データを活用した地域課題の解決を目指す「アーバーンデータチャレンジ」などで賞を獲得し、学内においても学長表彰を受賞しました。



今後も研鑽を続けつつ、学内のインフラとして機能できる体制を継続する所存です。お困りごとがあれば是非お気軽にご活用ください。

部活紹介　よさこいで浜松の魅力を全国へ

情報社会学科2年　佐藤 優阿、電気電子工学科2年　王子 晴貴



こんにちは、浜松学生連鰻陀羅（まんだら）です。私たちは「よさこい」を通して、遠州・浜松の魅力を全国へ届ける活動をしています。

とても仲の良いメンバーで日々練習を重ね、昨年の「にっぽんど真ん中祭り」では念願のファイナルコンテスト出場を果たし、優秀賞を受賞することができました。

当チームの大きな魅力は、全員で一つの作品を作り上げる一体感です。演舞はもちろん、デザイン考案や小道具の一からの制作、情報学部生を中心としたSNSでの広報活動など、一人ひとりが得意分野を担当しています。SNSを通してチームの明るい雰囲気や魅力を発信し、知名度向上や来年の新たな仲間との出会いにつなげたいと考えています。



今年はチーム史上初となる「2年連続ファイナルコンテスト出場」を目指し、最高に熱い夏を過ごしています。ぜひ「浜松学生連鰻陀羅」の演舞をご覧ください！

留学生の声　修士留学生の生活

情報学専攻 修士2年　ウィナ・ディアヌ・サリ

学士課程在籍時にインドネシアから静岡大学へ留学した経験があり、卒業後、長年の社会人経験を経て、進学の夢を実現するため再びここへ戻ってまいりました。現在、情報学専攻修士2年で、文部科学省国費外国人留学生のウィナと申します。

私の研究テーマは、同人文化を中心とした日本のポップカルチャーです。インドネシアでも同人文化が発展しつつありますが、この分野を専門とする研究者はまだ少なく、十分に研究できる環境が整っていません。そのため、より専門的に学び、研究を深めるために、日本で研究を続けています。

修士課程では、学部生の頃から興味を持っていた国際学会、Mechademiaで研究発表を行いました。世界中のアジアのポップカルチャーを研究する方々と出会い、交流・議論ができたのは、私にとって最も貴重な経験の一つです。進学の夢を実現した今、次は日本のポップカルチャーに関わる企業で働くという夢に向かって、これからも努力していきたいと思います。





Joy風 vol.37 October2026

お問い合わせ
〒432-8011 浜松市中央区城北3-5-1 静岡大学情報学部事務局
TEL：053-478-1510・1511　FAX：053-471-0249
学務窓口 pr-gakumu@inf.shizuoka.ac.jp

情報学部のウェブページに最新情報が掲載されていますので、どうぞご覧ください。 https://www.inf.shizuoka.ac.jp/